

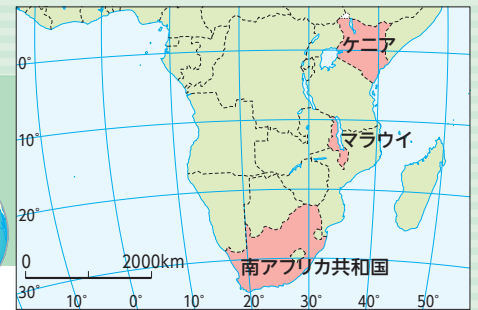
国際協力の
最前線+α

4



途上国の農家に自信をつかむ 成功体験を

小規模農家への支援を進める
JICAの相川次郎さん



Q 現在のお仕事について教えてください。

アフリカやアジア、中南米のなかでもいわゆる発展途上国とよばれている国々では、人口の大半は小規模農家で占められています。しかし彼らの農業は、大手の輸出業者や流通業者、一部の大規模農家に圧倒され、十分な利益をあげられていません。そこで私たちが推し進めているのが、市場志向型農業振興というものです。市場のニーズや、それに合わせた作物をつくるノウハウをもっていけば、小規模農家であっても、農業によって収益をあげることは不可能ではありません。

日本には、海外から取り入れた新しい文化を日本に合うように変えてきたという伝統があります。日本人のこの特性が、海外の人たちが新しいことを受け入れる、そうした環境をつくる際に役立つのではないかと考えています。

Q 小規模農家への支援で大切にしていることは何でしょうか。

私たちはアドバイスはできませんが、実際に実行するのは現地で農業を営む人たちです。そのために彼らが自発的に課題に取り組めるような指導法を考え、「自分たちにもできる」と自信をもてるように、あせることなく、成功までの過程を大切にしています。

結果として、これまで私たちが説明する機会が多かったアフリカの国々との国際会議でも、彼ら自身がおたがいの経験をもとに話し合い、教え合うことが増えてきました。成果をあげた農家は生活が豊かになるばかりでな

く、自分の力による成功体験によって、自信とプライドが得られるようになったと思います。

Q 現在のお仕事につくまでの経緯や、「やりがい」を感じる瞬間について教えてください。

中学生のときに、技術科の先生に「人口増加で食糧不足の時代がやってくる、これからは農業だ」と言われ、なるほどと思いました。そこで大学では農学部へ行き、卒業すると青年海外協力隊に参加したのですが、もっと知識が必要だと考え、帰国後、大学院に進学しました。

そうしてたどりついた現在の仕事では、政策を決定する政治家や公務員から、現場の小規模農家まで、幅広い職業や立場の人々と接する機会にめぐまれています。それら多くの人々が満足してくれる、そんな様子をじかに見ることができることに何にもかえがたい喜びを感じています。



2 農場の様子(マラウイ, 2018年, 写真提供: 久野真一/JICA)



1 「つくったものが売れた」と喜ぶ現地の人々と相川さん(南アフリカ共和国)



3 セミナーで教え合う人々(ケニア, 写真提供: JICA)